

第3回学校運営協議会R8.1.9

1、会長あいさつ

今年も子どもたちを応援していきたい。（諸会合のため退出）

2、学校長あいさつ

日々いろんなことがある。あっていい。子どもたちも過ごしていれば衝突もあるしトラブルも起きるが、子どもたちと先生方で解決していける。

子どもたちが活躍してくれていてうれしい。子どもたちからエネルギーをもらえる。

→well being

年度末に向かっていく。忌憚のないご意見をいただきたい。

3、2学期までの学校の様子

授業アンケート、学校評価アンケートから

学校評価アンケートから、自分のことや相手のことを考えられることを保護者も望んでいる。

逃走中大盛況。企画運営に感謝。

お米作りにたくさんの地域の方にかかわっていただいた。

クローバーの会の方に花壇を見ていただいている。小平奈緒さんのユリをうえたい、という5年3部の願いを受けて、クローバーの会の方々との関わりもできた。

コロナが明けて、できなかったものが少しずつ復活してきている。地域の方に感謝。縁結びの会とのつながりも大きい。

4、学校評価について

評価シート記入のお願い

最後の玉川の日（2/24）までに提出していただきたい。

5、玉川の日について

ぜひお越しください

6、玉川小学校の児童の様子等についての意見交換

協議員A：配付したものをリーバーで共有できるとよい

P T Aはなくなってしまうのか

協議員B：すぐなくすことはできない。今までのことを継続できるとよいと思うが、みなさんも仕事があるので大変。みんなのできるといい。

協議員A：小泉山フェスタがとってもよかった。子どもたちの手作りに関心。こちらの意

見を取り入れながらすばらしいものを作り上げていた。(ハンモック)

校長：はじめての取り組みだったがとてもよかった。

協議員A：小泉山に来てもらいたいという子どもたちの願いがよかった。

校長：子どもたちの企画と創造委員会の方々との関わりがよかった。

協議員A：子どもたちがタブレットを使って発表したものもよかった。来年もやりましょう。

校長：4年1部と5年1部が参加した。そのクラス全員が参加したわけではないがクラスの子どもたちが中心となって行われた。

協議員C：単発のものなのかな

校長：継続してほしい。玉川の伝統になればよい。

協議員A：全校のみんなや保護者にも伝えたことがよかった。広がって行ってほしい。

協議員C：中にはやりたくない子もいたのかな。どういう感じで始まったのかわからないが、みんなに体験してほしい。田んぼに入ってどろまみれになることも同じく体験してほしい。

協議員D：田んぼづくりも同じように体験してほしい。

校長：牛山さんの次世代となるといい人いないかな。

協議員E：牛山さんのように年間を通してかかわる方は難しいかも。地域の中から探していきたい。

教頭：小泉山に関しては、1月にそのクラスで行われる園児との交流につながっていく。子どもたちが地域の方との関わりを通して、地域の大人もキラキラしていることに気付くことが、自分の育った地域を好きになることにもつながるのではないかな。

協議員C：新規の不登校の子がいないと聞いたがその後どうか。

校長：今年の新規はいない。サポートルームのおかげ。でもこの先は出てくるかもしれない。

協議員C：スポーツで活躍している子の様子を玉小の他の子どもたちに知らせているのか。

校長：校長室で表彰している。

協議員F：学校の先生たちも応援してくれてのびのびやって喜んでいる。

協議員C：青陵中の試験問題に取り組んでみたが太刀打ちできなかった。学校では対応できない？

校長：そういう問題に対応していこうとすると、漢字が書くよりも計算するよりも応用する力が求められるが、すべての子どもたちにそういう学習を行うことが本当にいいのかと考えると、そこまで振り切るとは今は難しい。基礎基本も応用も行おうとすると時間が足りない。

教頭：学んだことを自分の言葉で言い換えて、伝えたり次の学習につなげたりすることが大事になってくる。

協議員C：A I の時代で漢字が定着しない、という番組を見た。五感を働かせて学んでいくことが人間しかできないことなのに、情報だけ詰め込んでもよくない。

校長：想像していく力が必要になってくる。見えないものを見ようとする力をつけようとするについてこられない子が増える。どうしたらいいのか悩む。

協議員A：どう使っていくか。発想の力をつけていくことが教育の大目標ではないか。今は過渡期。教育のふり幅が大きい。

協議員G：あいさつについて、なかなか返事が返ってこない。玉川地区のあいさつ運動として高校に参加した。帰ってくるとうれしいが見返りを求めないほうがいい。100回言って100回目にあいさつの声が返ってくればそれでいいのではないか。200回目に子どもから言われればそれでいい。まずは家族感で行う。返ってこなくても子どもの様子を想像するにとどめる。

グラフを見て「もっとあいさつができる」とみるのではなく、大人からあいさつをしていく。

学習については、動画など情報が多すぎていやになっちゃうのではないか。情報の取捨選択が必要になる。受験問題も同じ。自分が身に着けた何をどのように使ったからいいか。小学校では、情報が少し増えたときに取捨選択できることを通して、選び出すことの成功体験を増やしていく。

小泉山の活動よかった。

協議員H：コロナの後くらいから「玉小の子ってあいさつしないね。東部中はしているけど」という時代になったが、その前は「東部中はあいさつしないけど、玉小はするね」という時代もあった。

けやきフェスも子どもたちと関わってよかった。玉川がいい感じ。校長、教頭、所長さんが明るくて優しい。たいしたことはできないけど、少しでも喜んでいただけるとありがたい。

協議員C：横断歩道を渡った子どもが運転手に挨拶する。高校生でもする。全国的に見てもすごい。

教頭：それは親の姿をみているのではないか。

協議員C：それがあいさつにもつながる。究極のあいさつ運動。

協議員G：街頭指導の大人も頭を下げる。運転手の横断する人に対して止まろうとする意識が高いのではないか。親や地域の方などの大人がやっていることをいいなと思って、自然と広まったのかも。

協議員A：子どものとき、安全教育が行われていた。運転の仕事をしているが歩行者に気を向ける。自分の子どもにも横断歩道の渡り方は伝えている。あいさつだけはするように子どもに伝えている。

協議員F：オヤジの会で毎年行っている紙飛行機大会に加えて逃走中を行った。去年は25人の参加者が今年は200人を超えた。大人が本気で関わると子どもたちから返ってくるものがある。やってみてダメならやめればいい。長く続けることは大事だが新しいこともやっていきたい。「子どもが笑顔になることはどんなことなのだろう」ということを考えていきたい。オヤジの会も減ってきているが、意義は大きい。これからもかかわっていきたい。PTAの補助的な役割をオヤジの会が担ってもいいと思っている。

協議員E：田んぼに年間を通して関わることができた。学校とコミュニティ周辺の間が危ないが子どもたちも運転手も気を付けているからあまり事故につながっていない。おにご

っこやかくれんぼ、紙飛行機などの昔ながらの遊びを通し

で最近あまり聞かれなくなった子どもたちの大きな声も聞こえてうれしい。

7, 諸連絡

次回3月3日。

8, 校長あいさつ

児童会で「学校かくれんぼ」をしたい。実現のために6年生や児童会を中心に「廊下を走らない」ということを徹底した。けがが去年の10分の1になった。トラブルも激減。子どもたちから学ばされた。子どもたちが学校をよくしようと行動してくれた。